

# 京表具

## 【産地組合】京表具協同組合連合会

### （産地紹介）

佛教伝来と共に我が国に伝えられた表具は、書画に紙を貼って補強するためのものでした。それがその後、保存や鑑賞のために、書画等に裂地や紙等で縁取や裏打ち等をして、掛軸や額に仕立てたり、屏風や衝立、襖は部屋の仕切り、風よけ、目隠し用として一般家庭の日常生活に使われています。

京都の美しい環境と京都人の洗練された美意識に支えられ、気候・風土が表具作りに適していたこともあって発展しました。また、床の間の発生や室町時代末期から江戸時代にかけて茶道が盛んになったことから、茶人たちの美意識を反映した表具が完成しました。

